

府農業会議

令和5年度農林施策を西脇知事に提案

目標地図の作成から地域計画の策定・実現まで支援を要望



西脇知事(左)に提案書を渡す栗山会長

京都府農業会議(栗山正隆会長)は11月14日、「令和5年度(2023)」京都府農林施策および予算に関する提案」を西脇隆俊知事に提出した。来年度から施行される農業経営基盤強化促進法の改正などを踏まえ、7項目の重点事項を中心に要望した。

提案の重点項目では、①現況・目標地図の作成から地域計画の策定・実現までのパッケージ支援②農地中間管理事業の円滑な推進の支援③農業委員会の農地利用最適化活動の強化に対する支援④農村関係人口の増加を移住に繋げる取り組みの支援⑤高度な技術と経営力を持つ農業人材育成の支援⑥京都府に適したスマート農業や有機農業の支援の農業所得向上のための輸出拡大や未利用B級品の一時加工などの支援を要望した。

計画策定の支援、集落連携1000軒農場づくりや農村RMO創設による地域活性化の支援、次世代を担う若手農業者組織の育成、有害鳥獣の駆除体制の拡充、異常気象や新型コロナウイルス感染症に対応できる災害対策予備費の創設などを求めた。

西脇知事は「現場で取り組む地域計画策定の支援、集落連携1000軒農場づくり事業の延長、総合的な農村活性化対策などに努めたい」と応じ、提案を施策に活かす考えを示した。

上半期に41人が2813日活動

全委員が活動記録を毎月提出!

で委員が日常活動を記録する取り組みがスタートして半年が経過し、各市町村で上半期の取り組みがめが進んでいる。京丹波町農業委員会では、委員41人が4~9月に月平均4.69枚(毎月11日超)の活動記録を大幅に超過達成し、上半期全体で2813日分の活動記録を地区別・個人別集計表に取りまとめた。11月7日、定例総会後の「農地利用最適化推進」の「農地利用最適化推進」集計表に取りまとめた。11月7日、定例総会後の「農地利用最適化推進」集計表に取りまとめた。

えびいもの職人をめざして

亀岡市 山口款さん 3200株を大きく栽培



えびいもを持つ山口さん

亀岡市馬路町でえびいもを栽培する山口款さん(48)。エンジニアの仕事をしてきたが、以前より農業に関心があったことから、新規就農した。亀岡えびいも部会長の関洋さんに4年前から栽培方法を教わり、現在は56坪でえびいも約3200株、他にも水稲、黒豆などを栽培している。山口さんが作るえびいもの魅力は何となくもその大きさだ。片手には収まらないサイズとずっしりとした重みがある。初めは収量も少なく、形も不ぞろいだったが、土づくりや土入れのタイミングなど試行錯誤を重ねることで、収量は増え形も良いえびいもを栽培

できるようなった。また、地元「馬路町農業受託組合」では、オペレーターとして麦や小豆の収穫を大型コンバインで行うなど、地域の担い手となっている。(亀岡市農業委員会)

京都

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075-441-3660



京丹波町農業委員会

直しと農水省ガイドラインの発出を受けて、本年度から全国の農業委員会

活動記録簿 最適化活動分類例	京丹波町農業委員会事務局
項目欄(該当する活動)	詳細欄の活動内容記載例
2 農地の集積・集約化(法第6条第2項)	地域の寄り合いで今後の営農意向を聞いた 〇〇さんが経営継承の話をした 〇〇さんから借りれる農地について相談があった 〇〇さんから電話で農地を貸し付けたいと相談があった 地域計画(京丹波農場プラン)の話合いに進行役として参加した
①意向把握(出し手、貸し手)	2-①
	2-②-ア



軽トラックで早見表を愛用している宇野栄委員

過去最大の生産者・バイヤーが参加

(売り手66事業者×買い手65社) 販路開拓に期待 京都農業ビジネス商談会

京都府と府農業会議は、府内の農業生産者などの販路開拓を支援するため、先月27日、「京都農業ビジネス商談会2022」を開催。過去最大の売り手(66事業者)と買い手(百貨店やスーパー)

「ちょうどいい農村」で田舎暮らしを満喫

木津川市 塩田伸次さん



車で10分圏内に駅やスーパー、自家用の野菜や米を無農薬で栽培している。米作りは、集落内の方に教わりながら手植え、手刈り、稲架掛け乾燥に挑戦した。しつかり集落に溶け込み、田舎暮らしを満喫している。「集落の農地を守るように営農技術を磨くとともに、農業体験できる場を提供できるようにしたい」と目標を語る。今後は、塩田さん一家のような若い移住者が増えることを期待したい。(木津川市農業委員会)

女性委員が “つないで発信”

茶畑の継承について思うこと



父から引き継いだ茶畑で娘を抱く 中尾委員(左)と母

和束町でも高齢化などを深されますが、あるで耕作をやめる茶畑が増え、近所の方から相談を受けています。大抵は親戚受けました。周りから農業などの飛節などの繋がりです。初めて農業委員らしいことができました。わが家にも40坪の茶畑があります。父の死後、私が引き継ぎ、兄と夫と母の協力があって何とか続けているけれど、その次は...。娘には自由に生きてほしい。世の親類さんたちみんなが思ってきたことを、やはり私も思うのでした。(和束町農業委員会・中尾恵美委員)

集落営農対象を新設

た。初参加の生産者も、模擬商談会に参加して専門家のアドバイスを受けた。京都府農業会議は、農業法人の設立を検討している農業者を対象に「農業法人設立講座」の受講生を募集している。本年度は、集落営農の関係者を対象に「集落型法人の設立前に必要な整理と仕組みづくり」の講座を新設。12月1日まで全3回で法人の設立手続き、税務・会計、雇用・労務管理について学ぶことができる。参加費は無料。詳細は、府農業会議のホームページ、または075-417-6847まで。

法人設立講座 受講者募集